

広い分野で活動創出

岡山発国際貢献 推進協が発足 人材育成にも期待

岡山県の産学官七十一団体が加盟する「岡山発国際貢献推進協議会」が五日、発足した。機動力があるNGO（非政府組織）、開発途上国が求める技術やノウハウを持つ企業や団体、知識や教育力を備える大学、情報を発信するメディア、コーディネーター役となる行政が、それぞれの力を合わせることで、医療、

教育、農業、環境など幅広い分野で新たな国際貢献活動創出が期待される。（1面関連）

県内には国際医療ボランティアAMD A（岡山市）をはじめ、国際貢献に取り組むNGOが約四十団体もあり、地方都市の中では際立って多い。県も全国唯一の国際貢献条例を持ち、貢献活動を後押しする環境は整って

いる。ただ、多様化する現地ニーズに、それぞれが個別に対応していたのでは、財政面、能力とも限界があった。協議会の設立により、互いの得意分野や人材面で協力しあうことができ

る。例えば、災害救援なら医療分野で貢献した団体からの現地情報に基づき、企業などが復旧に協力し、地域づくりのために農業団体が支援を引き

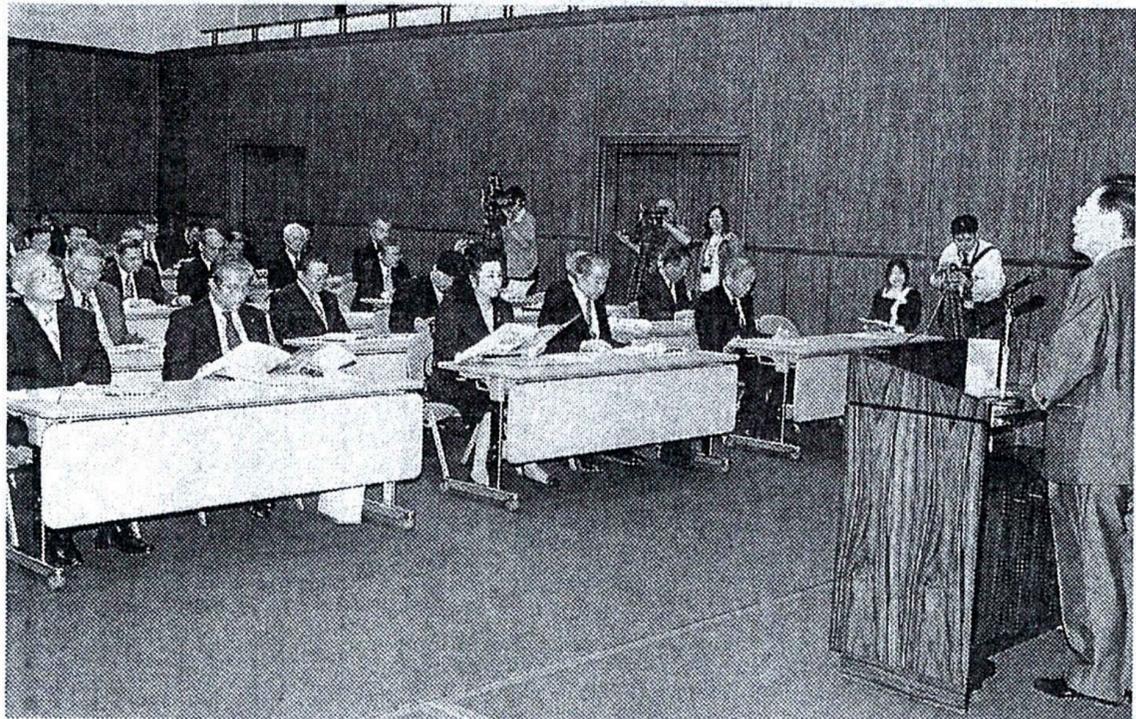
継ぐなど、段階に応じた継続的な支援が可能になる。協議会を通じてこうした連携が生まれる可能性が高まってくる。

宮本芳郎県農協中央会専務理事は「われわれには技術はあっても、国際貢献のノウハウがなかった。各種団体との連携で、農業技術の指導などを進めたい」。加計美也子吉備国際大学総長は「国際貢献できる学生の育成だ

けでなく、海外からの研修生を岡山県に受け入れることも容易になるはず」と話す。

国際医療ボランティアAMD Aの菅波茂理事長は「協議会を通じて、われわれの活動をより実効あるものにするにとともに、将来にわたって世界に通用する人材を育成、確保する基盤にしたい」と強調した。

（松原悠）



連携による幅広い国際貢献活動の推進について話し合う会員＝岡山国際交流センター